

地域おこし協力隊のふくしま散歩!

新年度を迎え、如何お過ごしでしょうか? 新たな環境に身を置かれることになった方も多いと思います。不安でしょうが、それよりもこれから広がる『ゼロからの世界』を楽しんでください。

先日3月8日(日)に東京都で開催された『地域おこし協力隊全国サミット』に出席しました。全国津々浦々から300人を超える協力隊が集結し、どのような活動をしているか知ることができました。

数カ所の地域が出展していましたが、中でも奈良県川上村の協力隊がされていた『林業BAR』が素晴らしく目に映りました。地域材を使用したベンチとテーブルの上で、これも地域材を使用したマスに地酒注ぐ。100%地物の提供でした。



地域おこし協力隊
川端 教文

地域の物をこういう風に活用できる環境が福島町には必要ではないのでしょうか? 産出したものを外へ向けて、若しくは誰が手にするか口にするか分からない形態での流通も必要ではあると思いますが、昨今では『顔の見える消費者と生産者』のほうがより大切だと考えています。例えば、福島町で獲れたものを気軽に町内で食べることができる環境があれば…。安定的な供給に疑問であれば、逆転の発想で『獲れた時限定』と銘打てば、リピーターの確保につながる要因の一つになるやもしれません。町のものを町で食べることができない。これは観光客誘致に関しても非常に大きな問題だと考えます。『食(食材ではない)』が存在すれば、今までは通り過ぎていく方を掴むことが十分できると思います。それが今、観光客の求めているものだと感じています。

来月に迫りました『女だけの相撲大会』が開催されます。今年は全員で例年より早く準備に取り掛かりました。その中で一つ提案・実行したことがあります。外国人へのアプローチです。各学校に配置されているALT(外国語指導助手)の他にも全国には沢山の招致外国人の方がいらっしゃっています。その北海道の組織HAJETに北海道国際課を通じて働きかけました。北海道国際課からは「参加してみたいと話題になっている」と聞いていますが、果たして結果は…。

今回外国人の方が参加することが最終目的ではありません。今回来ていただけた方々が情報を発信してくれることを見越しています。そこからもっと多くの方が女だけの相撲大会だけでなく、福島町に目を向けてくれることでしょう。日本で生活している方々なので、外国だけでなく日本国内にも広がりを見せるのでは? と考えています。その代り、きちんとした対応をしなければ、悪い話が広まってしまいますので、気を引き締めて臨みます。

こういう『口コミ』を大切にしなければなりません。広告宣伝費用が無料な上、世界に発信されます。そして、お客様の本当の声なので、そこから得るのが沢山あるかと思っています。沢山の方々が「福島町は凄い」と唸るような町にしたいですね。



▲総務大臣の挨拶



▲参加者全員のPRタイム



▲屋外では出店も…